

令和元年度総合教育会議議事録

- 開催日時 令和2年2月6日（木）午後3時30分
- 開催場所 本庁舎別館 403会議室
- 出席者 谷藤裕明（市長），千葉仁一（教育長），田口淳一（教育委員），玉川英喜（教育委員），五十嵐のぶ代（教育委員），佐々木健（教育委員）
- 事務局職員
教育委員会
豊岡勝敏（教育部長），大澤浩（教育次長），千葉高明（総務課長），紺野好弘（学務教職員課長），小山田秀次（参事兼学校教育課長），吉田誠量（総務課長補佐），佐藤理恵（総務課総務企画係長）
市長部局
古館和好（市長公室長），齋藤克幸（企画調整課副主幹兼政策調整係長）
- 傍聴者 2名（岩手日報社，河北新報社）
- 内容 次のとおり

1 開 会

（大澤次長）

定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度盛岡市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行は教育次長の大澤が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、構成メンバーである「市長」と「教育長」及び「教育委員」の全員が揃っておりますので、御報告させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

開会に当たり、谷藤市長が御挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

（谷藤市長）

本日は、教育委員の皆様には、御多用の中、御出席いただきありがとうございます。

また、日頃から、本市の教育の充実のために御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年度開催いたしました本会議におきましては、「学校における働き方改革について」及び「盛岡市の子どもたちの活躍について」の2件を議題といたしまして、皆様と活発な意見交換をさせていただいたところでございました。

特にも、学校における働き方改革につきましては、子どもと向き合う時間の確保や教職員の心身

の健康の保持の観点から、今年度から市内の小・中学校の部活動指導員を配置するなど、学校現場でも創意工夫を凝らしながら働き方改革が徐々に進んでいるものと存じております。

さて、学校教育におきましては、来年度から小学校で新学習指導要領が全面実施されるほか、GIGAスクール構想による1人1台の端末環境の整備等を目指すなど、ハード・ソフト両面からの大きな教育改革が行われようとしております。これを契機といたしまして、子ども一人ひとりがよりふさわしい教育を受けられるよう、教育委員会と市長部局が連携しながら取り組んでいくため、教育施策の方向性を共有していきたいと存じますので、千葉教育長をはじめ、委員の皆様から、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

本日は、よろしくお願いいたします。

(大澤次長)

ありがとうございました。それでは次第の「3議題」に入ります前に、本日の進め方について、御説明を申し上げます。

議題の(1)学校教育の現状と課題につきましては、お手元の資料1及び資料2、議題の(2)「盛岡市の子どもたちの活躍について」は、資料3、4、5を使って、進めてさせていただきます。

会議の議長は、盛岡市総合教育会議運営要綱第2の規定によりまして、市長が務めることとなっておりますので、ここからの議事進行につきましては谷藤市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議 題

(谷藤市長)

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

3の議題に入ります。

(1) 学校教育の現状と課題につきまして、事務局から、「新学習指導要領の全面実施について」及び「学校におけるICT環境整備及びGIGAスクール構想について」、概要説明をお願いします。

(豊岡教育部長が、資料1及び資料2に基づいて説明)

(谷藤市長)

ありがとうございました。今、説明をひととおりお願いしたわけではありますが、委員の皆様の方から、説明を踏まえながら意見などがあれば伺っていききたいと思います。

最初に、田口委員からお願いします。

(田口委員)

私からは、小学校における外国語教育の導入につきまして、日頃感じていることをお話しさせていただきます。

社会の変化は激しく、特にグローバル社会の進展の中での「英語を使う力」の必要性あるいは社会の要請は高く、特に小学校の外国語教育の導入は今回の学習指導要領の最大の目玉ではないかと考えております。

新年度から、3・4年生で週1時間程度、外国語活動(英語)が実施されます。外国語活動は「教科」ではありませんので、成績はつけず、検定教科書也没有。この活動はすでに前倒しで実施されていますので、これまで何度か授業を見る機会がありました。この授業の目的は「聞く」「話す」ことを通じて「英語に親しむ」というコミュニケーション活動が中心ですので、子どもたちは電子黒板や教師自作の教材などを利用して、ゲームをしたり、対話や発表を取り入れたりして、どの学校でも、明るく楽しみながら授業に取り組み、更に新たな興味や関心を示すなど前向きな活動が印象的でした。このような授業が、中学校・高校へと高められていくなれば、皆英語を話せるようになって卒業できるのではないかと感じるところであります。

次に、5・6年生では検定教科書を使い、「教科」としての「英語」の授業が週2時間程度行われます。授業の目的は「英語によるコミュニケーションスキルの基礎を養う」ということで、「読む」「書く」という領域も加わります。そのため基礎的な表現も学びますし、現行の中学1年生の学習内容の一部も含まれます。成績評価の対象にもなります。これまで、研究指定校の取り組みや教科研修を積み重ねながら、本格実施に備えてきました。先生方は、授業展開を工夫しながらよく努力していると思っておりますし、子どもたちは柔軟な思考で、むしろ楽しみながら授業に臨むなど、いい方向に進んでいる感じがいたしました。しかし、教科専任制でない小学校の先生方が「英語」を担当するという、精神的負担には十分配慮する必要があるだろうと考えております。そういう意味で、ALTの採用に御配慮いただいておりますことに感謝申し上げます。

小学校から「英語」を学ぶということは、時代の要請・流れでもあるかと思いますが、実は昭和40年代に「教育の現代化」の名のもとに、教育内容の高度化を図り、結果として「授業嫌い」「落ちこぼれ」「不登校」等が発生し、教育の荒廃を招いたという苦い経験があります。そういうことで、小学校で英語嫌いをつくらない・新たな中1ギャップの要因にしないことを念頭に、授業方法の更なる工夫・研究が必要であろうと考えています。同時に、小・中・高で授業の進め方等について、連携を深めながら取り組む必要があるだろうと考えますし、特に小学校における授業手法を中学校・高校にどのように繋げていくかも重要であろうと考えております。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

次に、玉川委員お願いいたします。

(玉川委員)

私の方からは、いよいよ4月から全面実施される新学習指導要領の中の、小学校で必修化される「プログラミング教育」について、意見を申し述べたいと思います。

新学習指導要領の全面実施については、マスコミ等でも取り上げられるようになってきておりまして、その中で小学校のプログラミング教育の必修化については、これからのグローバル社会の中で生き抜くのに必要な力（を養う）、というような報道も見受けられるところでございます。

これからはやはりAIの時代、あるいは世界を視野に見据えたグローバルな時代に入っていくということで、その中でパソコンやタブレット等を使いこなす技術は欠かせませんし、グローバルな人材の育成が求められていることをあらためて認識しております。

学校教育は、トータルな人間を育成することを目指していて、先ほどの説明の中にもありましたが、プログラミング教育の中でも、子どもにつけさせる力は単に機器を操作するというだけでなく、必要な思考力・判断力も身に付けさせるということが新学習指導要領の中のねらいでありますので、各教科、道徳・特別活動等の中にそういう内容で構成されているということを踏まえながら、その上でAIは内容をよく理解し、身に付けさせたい資質を高めていくためのツールとして非常に有効であろうと考えております。あくまでもツールであるという部分を踏まえていくこと、あるいは留意していくことが必要ではないかとも思うわけです。

例えば、よくグローバル化ということと言われることの中でも、英語を話すことは当然必要な手段になってきますが、むしろ自分の国とか郷土の文化や歴史を、外国に行って紹介できることが、国際交流の中では非常に大切ではないかということが言われたりします。これからのAIやプログラミング教育の中でも、そういう視点が非常に大事ではないかと思っております。

こういう変化の時代に大事になってくるのは、変化の時代に対応する教師の資質であろうと思うわけでございまして、そのためにはやはり研修が欠かせないと思います。教師は研修によって自分を高めていく、進化し続ける存在であると思いますので、その場合に、研修ということでややもすると新しいものに対応するだけのマニュアル的なことの習得とか、効果や即効性を求め、教える技術や方法にとらわれがちな部分があったりしますが、そもそも研修は研究（探究心・物事を究める心）と修養（品格を磨きながら人間性を高める）で成り立っているということで、研修を通して柔軟なことに対応できる資質が必要になってくると思います。目の前の子どもたちに、どうすればこういう力をつけてあげられるかという探究心を持ち続ける研修を大事にしていくべきだろうと考えております。

研修の環境づくりについては、行政や地域、保護者のバックアップは非常に大きな役割を果たし

ていると思いますので、盛岡市では今までこういうバックアップを続けてきておりますけれども、ぜひこういう変化の激しい時代に先生方を後押しする役割を今後も続けて果たしていけたらいいなと思う次第であります。以上でございます。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

では、五十嵐委員お願いいたします。

(五十嵐委員)

私の方からは、ICTを活用した学習場面について、保護者として子どもを通して感じることを申し述べさせていただきたいと思います。

今、世の中はSociety 5.0を迎える時代と言われています。次世代を担うこれからの子どもたちにも、時代に即した学習方法が必要となってきます。

デジタル教科書の導入や一人一台のコンピュータ、ということが求められるのも致し方ないことと感じています。子どもたちがタブレット端末や電子黒板を使用して授業を受けることで、今後学習に対する時間のかかり方が変化してくるのではなかろうかと考えています。その中で、コンピュータで学ぶのに適したこととそうでないことがあるということで、家庭でも保護者として、学習内容やタブレットでどういうことを学んでいくのかということ、知識として知っておく必要があると感じております。

我々は昨年度、教育委員として郡山で研修をしてきました。郡山では、パソコンの整備状況が、小学校で3,436台、うちタブレット端末は2,156台、中学校に関しては2,700台、うちタブレット端末が1,031台、義務教育学校に関しては166台、うちタブレット端末が110台となっております。今後、郡山市ではICT支援員業務委託も重点事業として取り組んでいきたいという考えで、かなり導入が進んでいるという印象を受けて帰って来ました。ICTを授業に活用することは、柔軟さが求められると思います。今後の子どもたちの新たな生きる力を育む一助にもなるのではないかと考えております。このタブレット端末が児童生徒に与えられた場合に、持ち帰って課題をこなすシーンも出てくると言われていて、ということは、今大変叫ばれています情報機器の使用問題について、私はインターネットや情報機器が悪いのではなくて、あくまでも使い方の問題であると考えています。今現在でも学校では先生方が非常に綿密に指導してくださっていて、子どもたちは先生から受ける情報をきちんと把握しているはずなのですが、やはり家庭でのルール作りが一番大事なかなと思っております。これは情報機器というものだけに関わらず、子どもと保護者がどう向き合って生活していくかということが一番重要と思っております。子供と向き合いながら、発達や成長段階に応じて適切に使わせていくことが、家庭の中で大事と思っております。以上です。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

では、佐々木委員お願いします。

(佐々木委員)

私からは、五十嵐委員からお話のあったICTに関わって、ICTの環境整備で予想される課題についてお話させていただきます。

ICTの導入により、これまで以上に質の高い授業が期待できるものと思います。ただ、それにはいくつかの課題も上がってくると思っております。

まず、1つ目ですけれども、情報通信機器等を使った授業ですので、授業の構想を練ったり、機器を熟知し自由に使いこなせる教員の力が授業の質を大きく左右するのではないかと思います。今、現場ではこういった機器や、機器を活用することを苦手とする教員もおります。児童生徒の側に立ってみると、機器を操作したり、たくさんの情報の中から必要な情報を取捨選択したりする力の差が授業に大きく影響してくるものと思います。今後、研修会や研究会等を重ねながら、成果を共有し合って、先生方一人ひとりの指導力の向上を図っていくことが必要であろうと思っております。

2つ目は、セキュリティの問題です。これまで児童生徒がコンピュータ等に触れるのはコンピュータ教室の中でのことでした。したがって、インターネットとの接続の規制も比較的安易に行うことができました。しかし、これからは校内全体が無線LANでつながり、児童生徒一人ひとりがタブレットを持つこととなります。それは同時に外部とのネットワークの中に組み込まれることになると思います。タブレットの管理、インターネットへの接続等、情報セキュリティの確保の方策が喫緊の課題になると思います。

3つ目は、整備後の保守管理や更新時の経費についてです。今回の導入については、国の支援を得て整備を進めるわけですが、今後の保守管理や新たなシステム・ソフトウェアの導入、機器の更新等で経費負担がかかります。ある程度見通しを持った、計画的な対応が求められるのではないかと思います。

4つ目は、これは私の個人的な思いかもしれませんが。小学校では、文字の習得や文章の記述の仕方を、国語の授業で基本を学習し、それを他の教科や領域の中で、実際に書くことを通して習熟を図るようにしてまいりました。しかし、ICT導入により、子どもたちの文字や文章を書く機会が減少し、文字の習得や文章の記述力に影響が出てこないかと心配しています。ICT整備計画の最終年度までまだ数年ありますが、その間に課題等を整理しながら、学校現場と一緒に、解決に向けて取り組んでいかなければと思っております。以上です。

(市長)

ありがとうございました。

では、千葉教育長をお願いします。

(千葉教育長)

私からは、学習指導要領の改訂にどう対応していけばいいかという観点からお話したいと思います。

先程事務局からもお話がありましたが、学習指導要領の改訂はほぼ10年に1回の割合で行っております。その時々科学技術の進歩、産業構造の変化、あるいは子どもたちにどういう教育が求められているのか等により、10年毎に改訂されているわけです。今回の指導要領は、グローバル化、AI等の急激な発展等によるICTの活用が求められている。また、選挙権年齢の引き下げの法改正がありましたので、それに対応して主権者教育が新たに盛り込まれるものであります。

教育委員会といたしましては、今後新しい学習指導要領に則った教育が適切に行われるよう、ICT環境の整備等を推し進めていかなければならないわけでありまして。学校現場は、新しいものだけに力を入れて、これまでずっと大事にしてきたものがややおろそかに、あるいは時間がなかなか向けられないということがありますので、そこは十分気を付けていかなければならないと思います。

例えば、パソコン等が導入されて、今パソコンではいろいろなことができますので、実際にその場所に行かなくても画面上であたかも体験したかのような錯覚に陥る「バーチャルな体験」ができますが、そうではなく、特に小学校低学年の子どもですと、学ぶときには実際に本物に触れたり、5年生の稲作体験のような実際に田植えをしたり、生き物を育てたり、区界の林間学校等、実際に自然の中に行き、体全体で触れながら学んでいく。社会体験も同じでありまして、実際に地域の行事に参加したりしながら、地域の人と話をしたり、様々協力することの大切さ、地域の素晴らしい歴史や伝統があるということに触れたりする活動が大事なわけでありまして、まとめて「体験学習」と呼んでおりますが、ICTがますます活用される時代だからこそ、子どもたちが五感を通して学んでいくことは大事ではないかと思っていますので、盛岡市といたしましては、そのことにも力を入れていきたいと思っています。

もう一点、生きる力というのがありますけども、これは平成10年の改訂のときに強調されまして、20年の改訂でも踏襲され、今回も同様ですので、3回目になります。不易と流行という言葉がありますが、不易の部分でもあるわけです。先ほどの体験学習も不易の部分だと思います。問題を解決する力、豊かな人間性、たくましく生きるための健康・体力の3つの要素からなる生きる力を育むことについてもしっかりと取り組んでいかななくてはと考えております。

市といたしましては、これまでの先人教育・キャリア教育、更には教育振興運動等にきちんと取り組んできておりますので、学習指導要領が改訂されますが、これらには引き続き力を入れて取り

組んでいきたいと思っております。以上です。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

新しい学習指導要領につきましては、令和4年度までに順次全面実施されていくということになるわけですが、これからの「新しい教育」は、学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「未知の状況でも対応できる思考力・判断力・表現力」「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性」を総合的にバランスよく育むことを目的としている旨、事務局からも説明がありました。そんな中で、今教育委員の皆様方から様々な御提言・御意見を頂戴したわけであります。

特に、新しく導入される小学校の外国語教育、プログラミング教育が注目されていますが、英語との最初の出会いで英語が嫌いになったり、あまりにもスピードアップしてついていけない子どもが出たりして、落ちこぼれのような状態になったのでは何のために導入したかわからないということになると思いますので、個人個人の能力に合わせてゆったりと楽しみながら、余裕を持った中でスタートしていけることが大切ではないかと思います。最初の出会いのスタートのところを、長い人生の中でのスタートラインということで、ゆっくりアドバイスをして、段階を踏んで理解力を付けていただくということが大切なのだらうと思います。

現実としては、今グローバル社会は、これからの世界の中で生きていくには必要な分野であることは間違いないと思います。その辺をしっかりと踏まえたいうえで、先生方も得意な先生はいいでしょうけれども、得意ではない先生にとってはストレスを感じることもあるかと思いますが、初めての取組を一緒になって頑張っていたいただきたいと思います。先生方には大変な仕事が増える部分も出てくるかと思いますが、先生方の指導力・アドバイス等によって子どもたちがどう伸びていけるかということにつながっていく分野があると思います。そこを大切にしていきたいと思います。

子どもたちがどんどんそういう分野に関わっていくと、家庭の中でも、保護者の方もそれに対応していかなければならないと思いますが、そういう社会全体の動きが変わっていく要素も出てくるかと思いますが、うまく機器を活用すればいい方向に向かうと思いますけれども、世の中全体的にいい方向にばかり向かっているとは限らないので、ルール作りも含めて効果的にそういった分野につながっていければいいと思っております。

将来にわたって子どもたちの生きる力、自立していく力、将来に向かっていく、国際社会の中でも十分に対応していける能力を身に付けていくための一環だらうと思いますので、そこを十分に踏まえた中で、国の方針がもちろんあるにしても、それをより良い方向に活用して、盛岡は盛岡らしい教育の進め方があるわけですから、先人教育でも各先人の中から学び取るものを、キャリア教育にしても、世の中の仕組みがわからない、職業はどういうものがあるのかもわからないところから

いろいろな現場を見て、世の中がどういう構成で成り立っているのかということを知ろうということも大切なわけですから、最先端の機器をうまく使いながら生きる力を身に付けることに主眼を置き、一人ひとり能力は違うわけですから、一律ではなくその人に合ったところで頑張ってもらえればと思います。差が出るのは当然で、焦らずに対応してもらえればいいかとも思いますので、ぜひ委員の皆様には、今話題となった分野も含めて教育現場にも声を掛けていただければと思っております。

(谷藤市長)

それでは、2点目の「盛岡市の子どもたちの活躍について」に移りますが、初めに事務局の方から、「子どもの体力向上への取組について」、「盛岡市の子どもたちの活躍について」、及び「盛岡市内小・中学生が参加したスポーツツーリズム推進事業における各交流事業について」の概要説明をお願いします。

(豊岡教育部長が、資料3～資料5に基づいて説明)

(谷藤市長)

ありがとうございました。では、今のことも踏まえながらお話させていただきたいと思います。最初に、田口委員をお願いします。

(田口委員)

私からは、盛岡市の子どもたちの活躍ということで、一般的にお話させていただきます。

盛岡市民にとって、子供たちの文武にわたる活躍は何にも代えがたい喜びであり、また地域の明るい話題として毎年注目されています。その期待に応えるように、子どもたちは様々な分野で頑張る、その中で全日本クラス、あるいは世界クラスで活躍する人材が出ているというのは、頼もしい限りです。

特に、2016年に「いわて国体」がありましたが、スポーツ振興の上でこれが大きなきっかけを作ったのではないかと考えています。一流選手の競技力を身近で目にし、そこから得た刺激・感動・夢などは、子どもたちにとっては計り知れない財産になったと思います。一方で、盛岡市では国体のレガシーをどのように活用するかということで、その後積極的な取り組みがなされたと思っています。

そして、今年は東京オリンピック・パラリンピックイヤーではありますが、昨年のラグビーワールドカップに関連しまして、盛岡市としての関わりもたくさんありました。カナダとの各種スポーツの交流や事前合宿、アフリカ・マリ共和国柔道競技の事前合宿等、国際交流の面でも子どもたちに

興味と関心を与えていると思っております。

また、スポーツ活動について、市民意識が高揚していると感じます。地域の人々の会話からも実感します。昨年行われた盛岡シティマラソンの継続を望む声も、その一連の流れからきているものと考えます。その意味で、今年も開催されるということですので、喜んでいきます。子どもたちの元気は地域の元気、盛岡市民の元気に繋がりますので、今後とも子どもたちの活動や活躍を見守っていきたいと思っております。

(谷藤市長)

ありがとうございました。玉川委員お願いします。

(玉川委員)

私からは、ここ1年いろいろな場面で子どもたちの頑張る姿を見聞きすることがありましたので、その辺りを中心にお話したいと思います。

先程の説明でのいろいろ子どもたちの活躍は、やはり市民の一人として嬉しい限りでありますけれども、私自身が見聞きした中で、日常的な取り組みを発表するような場で子どもたちの頑張る姿に感動を受けたことがあります。例えば教育振興運動では、今年度は子どもの発表が多かったのですが、第V地区では河南中学校3学年の合唱の発表がありました。会場は盛岡劇場で、劇場に響き渡るような素晴らしい発表でした。河南中学校では、合唱・応援・ボランティアを三本柱にして生徒の活動を行っているのですが、その一端を垣間見る思いで、非常に参加してよかったと思ったところでした。

つい先日ですが、教育振興運動の実践発表大会がマリオスで行われましたけれども、この中に桜城小学校の聞こえとことばの教室の児童の発表がありました。発表の中で、「安心して学校生活を送っている」「言葉を大切にすることは人を大切にすること」ということを話していました。ある意味ハンディを持った子どもなのですが、それを本人の努力に加えて、その後桜城小学校の合唱の発表もあったのですが、この子たちは一人ひとり、ハンディも個性のひとつとしてお互いに認め合っているのだと感じさせるような発表を目の当たりにして、お互い認め合い、安心して学校生活を送ることができる健全な盛岡の子どもたちの姿、能力個性を發揮できることが着実に行われているのだなということを感じられる、いい発表でした。

最後にひとつ、シティマラソンについてですが、私は給水所になっていた志波城古代公園で最初から最後まで居合わせました。最初、神野選手等の招待選手がすごいスピードで通り過ぎて、やはり一流選手は違うなと思ったのですが、その後に6千人の選手が続々とやって来るんですね。その壮観な光景が素晴らしいなと思いましたし、70人くらいの地元ボランティアのスタッフが給水所で楽しそうに給水作業をしていて、そういう姿を見ていると、盛岡の子どもたちは結構ボランティア

活動が盛んなのですが、大イベントで盛岡の地域性が発揮される姿が、子どもたちにも伝わっている部分があると思います。地域性がボランティアを根付かせているのではないかと、思いながらシティマラソンを見ていました。ぜひ10年、20年、30年と続けて、ホノルルマラソンに匹敵するような大会になっていければいいなと思いました。こういうことで子どもたちの育つ要素が培われるという思いを強くしました。以上です。

(谷藤市長)

五十嵐委員をお願いします。

(五十嵐委員)

他の委員さんと重複する部分もあるかと思いますが、去年のラグビーワールドカップは全国的にも大変盛り上がり、ラグビー人気もかなり高まったと思います。盛岡にもカナダやナミビアの選手が来て、子どもたちとたくさん交流したということで、大変刺激を受けたのではないかと感じております。

先程の事務局からの説明を聞いて、全国レベルで活躍するような素晴らしい成績を収める盛岡の子どもたちが随分増えたなと思っております。ただ、反面今の子どもたちは、小さいころからスポ少をやったり、好きなスポーツを伸ばすような取組に参加したり、そういうことが好きな子どもは一生懸命幼いころからやっているんですね。運動が苦手な子はずっと家にいてゲームだけしているというような状況で、小学校でも中学校でも「体力の二極化」が問題視されていると考えます。

そんな中、昨年行われた盛岡シティマラソン、令和2年も開催されるということで、親子で触れたり参加したりすることで、スポーツを知るいいきっかけになるのではと思っております。残念ながら私は昨年走れなかったのですが、今年が一番距離の短い種目で走ればいかなと思っています。

(谷藤市長)

ありがとうございました。佐々木委員をお願いします。

(佐々木委員)

私は、資料4を見ての感想を述べさせていただきますが、様々なスポーツの分野で盛岡の子どもたちが活躍しているということがよくわかりました。以前は、学校の部活動の中でしか自分のやりたい種目が選択できなかったわけですが、最近は地域の中のスポーツクラブとか愛好会とか、様々な道場がありまして、児童生徒の選択の幅が広がってきたなと感じています。

来年度から中学校の部活動が、これまでの全員加入から自由な方向へと見直しが進められるわけですが、そういう中で中学生の運動離れが起こらないよう、社会や地域の取組もお願いしたいと思います。

いますし、好きなスポーツを選ぶことができ、生涯にわたってスポーツに親しむ盛岡の子どもたちが育まれていけばいいと考えています。以上です。

(谷藤市長)

ありがとうございます。では、千葉教育長、お願いします。

(千葉教育長)

各委員の皆様からいろいろなお話がありましたので、重複しない部分だけにしたいと思います。

今回、東京オリンピック 2020 等でホストタウンを立ち上げたりしているということで、外国の一流の選手の皆さんが盛岡に来て、子どもたちと触れ合う機会があるということが、一流レベルのプレーに直接触れることで、子どもたちが感動したり憧れを持ったりすることができて、とてもいいことだと思います。

それから、グローバル化ということですので、世界各国の方々が来れば、日本と異なる文化にも触れることができるわけですから、国際理解、盛岡理解にもつながるいいことだなと思っておりますので、益々この交流をいろいろな機会に深めることができればいいと考えております。

あと、五十嵐委員から、二極化ということがありましたけれども、一生懸命運動をする子どもと運動が嫌いという子どもが確かに目立つようになってきておりますので、教育委員会としまして、小学校低学年の時から運動が好きな子どもにしようということで、体育の授業の工夫あるいは休み時間にできるだけ校庭で体を動かすというような工夫をしていきたいなと思っています。

事務局からも説明がありましたが、50メートル走が、盛岡の子どもたちだけを見れば上がっているのですが、全国も上がっているのでなかなか差は縮んでいるものの追いつかないということがありますので、50メートルを走る力ということで、スポーツ推進課やスポーツ協会の方々の協力を得ながら、年間を通して、学校の授業の中で子どもたちの走力を向上させるような取組をしていきたいなと思っています。いずれ盛岡の子どもたちがますます輝いて、いろいろな面で活躍する、そういう子どもたちになるように心がけていきたいなと思っています。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

いずれ、子どもたちの体力向上は大切なことだと思います。ゲームセンターとか他の楽しいことがいろいろある中で、体を動かすことが楽しいと思えるきっかけにつながるようなことになればいいと思います。苦痛だなとばかり思っていたのではなかなか前に進みませんので。

いろいろな大会を見ていると、すごい選手が、頑張っている子どもたちがたくさん出てきているなということで、うれしく思っています。そんな中で今年のラグビーワールドカップでキャンプを

張ったチームやオリンピックに向けての事前キャンプで来ていただいた方々が学校訪問をしたりして、直接子どもたちと触れ合う機会に恵まれました。語学までもつながるかもしれませんが、そういうときにちょっと一言二言触れ合うことで、通じたなとうれしくなる等、ちょっとしたことでもそういう機会があればより伸びる要素が増えていくのではないかと考えております。今年もまたカナダ、マリ共和国のオリンピックの事前キャンプということで、選手等が盛岡を訪れるわけですが、そういう機会にもまた、今度は本番に近い時期になるので、どこまで交流する時間が確保できるかはこれからの詰め方だと思いますけれども、気分転換に恐らく選手たちもいろいろな交流をしてみたいと思っていると思うので、機会があればぜひ触れ合いながら体験していただきたいと思います。

それから、いわて盛岡シティマラソンに触れて、大変よかったという話をいただきまして、私もスターターをやらせていただきましたが、ものすごい人数のランナーで、あれを見ただけでもワクワクするというか、感動を覚えました。どれだけの子どもたちが、直接走らなくても、走っている状況を見たのか触れたのか、どれくらいの数が把握できませんが、あれだけの多くの方々が走っていることを「見学する」「応援する」「ボランティアで関わる」、そういう中に少しでも関わってれば、相当な感動を覚えたのではないかなと思います。

そういう場をどうするかたちかで作れることがあるのか、学校行事というわけでもないで直接身近なところで応援してもらってもいいし、2.5キロの短い距離もあるので、これはペアランですから家族の方々も巻き込んで、「こういうのもあるそうだからお父さん、お母さん一緒に走ろうよ。」というものも含めて、当日だけではなく事前に、本番に向かって体を動かすような運動機会にもつながるわけですし、大会前は随分街の中で走る人が増えておりましたけれども、親子の触れ合いの機会にもつながっていくだろうと思いますので、いろいろな機会を捉えてしっかり子どもたちに感動を与えられることが大切だと思います。

感動につなげていく機会は、なかなか子どもたちが自分で見つけることは難しいことが多いですので、周りの大人なり地域の方たちが「こういうのが今度あるから応援しよう。」とか「見た方がいいよ。」とか「応援した方がいいよ。」とか、きっかけづくりを大人側がやらないと、なかなかそこにたどり着けないだろうと思いますので、教育に関わっている先生方にも、ぜひ参加するようなきっかけづくりをお願いしたいと考えております。

今日はいろいろ委員の先生方からもお話しいただきまして、これからの市政推進に当たって参考にさせていただいて、一緒になって取組を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(谷藤市長)

この件に関わらず、(3) その他ということで何かございますか。

～教育長，教育委員からは特になし。～

(谷藤市長)

事務局からは，何かございますか。

(大澤次長)

事務局からも，特にございません。

(谷藤市長)

それでは，以上で議長を降りさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

4 閉会 午後4時33分

(大澤次長)

長時間にわたり，大変お疲れさまでございました。

以上をもちまして，令和元年度盛岡市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。